



四日市港末広橋梁周辺の 景観形成ガイドライン

令和8年3月

四日市みなとまちづくり協議会

目次

はじめに	1
1. 四日市港末広橋梁周辺の景観特性	2
2. 景観形成ガイドラインの対象エリア	3
3. 景観の眺望点	4
4. 景観形成ガイドラインの位置づけと使い方	6
5. 景観づくりの考え方	8
6. 末広橋梁周辺の景観形成方針・行為指針	10
6-① 千歳運河周辺の魅力ある景観を創造するための方針	10
6-② 行為指針	11
7. 参考資料	15

はじめに

四日市港四日市地区の末広橋梁を中心とした千歳運河沿いのエリアは、かつて物流の拠点として栄えた歴史を持ち、現在もその面影を残す古い倉庫群や、貴重な産業遺産である末広橋梁が存在しています。この地域には、レトロな雰囲気と静かな水辺空間が調和した独特の景観が広がっており、都市の喧騒から離れた落ち着いた空間としての魅力を備えています。

しかしながら、現在の千歳運河は物流機能を失いつつあり、運河沿いに建ち並ぶ倉庫群も老朽化が進行しています。一部の倉庫はすでに取り壊されており、今後の建て替えも予想される状況にあります。

こうした変化の中で、みなとまちづくり協議会としては、この地域の歴史的価値と景観的魅力を可能な限り保全しつつ、市民が憩い、楽しむことができる新たな空間として再整備されることを強く望んでいます。

そのため、末広橋梁周辺の景観形成ガイドラインを策定し、今後このエリアに関わる企業や市民の皆様に、空間整備に関わるデザインの目標（方向性）を提示し、共有していただくことで、四日市の港エリア（BAURA）の価値向上を目指す必要があります。



令和8年3月作成

四日市みなとまちづくり協議会

1. 四日市港末広橋梁周辺の景観特性

千歳運河沿いは、水運物流の拠点として発展した歴史を今に残し、特徴的な倉庫群が立ち並ぶ風情あるエリアです。末広橋梁と臨港橋の2つの可動橋が並ぶ珍しい景観を有し、水辺の開放的な空間が広がっています。



四日市港四日市地区を南北に通る千歳運河沿いは、今もなお港の古き時代の風情が残っています。

千歳運河沿いは、現在も使用され、特徴的な形をした古い倉庫が立ち並んでおり、かつては水運物流の軸として産業の発展を支えてきた場所です。



300m程の距離に2つの跳ね上げ橋（末広橋梁と臨港橋）がある珍しい観光スポットです。

末広橋梁は、国内で現役最古の跳開式可動橋（国指定重要文化財）であり、鉄道が走る国内唯一の現役の可動橋です。



末広橋梁は鉄道ファンの撮影スポットとして人気の場所です

運河沿いにはプロムナードが整備（一部整備中）され、水辺から空に向け、開かれた空間が広がっています。

2. 景観形成ガイドラインの対象エリア

「末広橋梁周辺の景観形成ガイドライン」は、次の図に示す四日市港千歳運河周辺を対象エリアとしています。本ガイドラインは官民の屋外空間、建物の見え方を対象としています。



※ 景観形成ガイドラインの対象エリア

3. 景観の眺望点

四日市港末広橋梁周辺の景観は、運河による直線的な「眺望軸(※1)」と、その姿を多角的に捉えるための「眺望路(※2)」という2つの視点によって形づくられています。



1. 眺望軸：千歳運河

千歳運河は景観の背骨であり、視線を遮るもののない「眺望軸」です。その軸線上の先に末広橋梁が位置することで、運河と可動橋が一体となった四日市港特有の産業景観を形成しています。

2. 眺望路：多角的な視点場

末広橋梁をダイナミックに、あるいはパノラマで楽しむための「眺望路」として、以下のルートが挙げられます。

▶ 運河沿いのプロムナード

水辺を歩きながら、橋の表情を間近に感じられる歩行者空間です。現役の可動橋を間近で体感できるメインルートとなります。



▶ 臨港橋

末広橋梁と並び運河に架かる橋からの視点です。少し離れたこの場所からは、運河の先に末広橋梁を正面に捉えることができ、橋全体の造形美を観察するのに適しています。



▶ 千歳橋

高い位置からの俯瞰的な視点を提供します。運河、末広橋梁、そして周囲の風景までを一望できる、産業パノラマを楽しめるルートです。



(※1) 眺望軸とは、特定の視点場（例：展望台、道路、河川敷など）から、山や海、建物などの対象物を眺める際に、連続した景観として認識される軸のことです。

(※2) 眺望路とは、景色を楽しみながら歩ける通路のことです。

4. 景観形成ガイドラインの位置づけと使い方

本景観形成ガイドラインは、四日市港四日市地区に関連する上位計画を参照し、官民が共有する空間デザインの方向性を示すものであり、規制を目的とせず、みなとまちづくりプラン（基本構想）^(※1)の実現に向けた協議会としての指針を示すものです。

目標の位置づけ

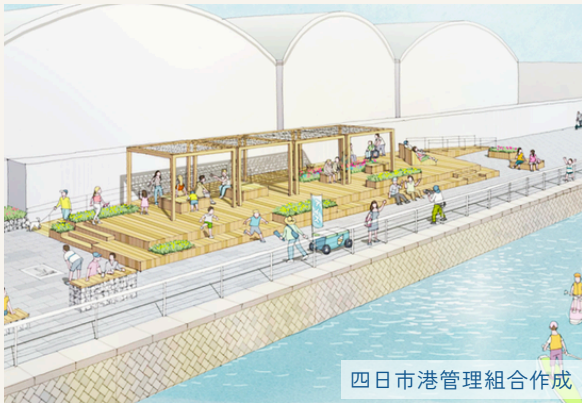
- ✓ 「四日市市景観計画」「四日市港色彩計画」を準拠・参照し、四日市港の末広橋梁周辺の景観形成の方向性を示したものです。
- ✓ 「四日市みなとまちづくりプラン（基本構想）^(※1)」や「千歳運河および野積み場における賑わい拠点形成のための調査結果（令和5年度実施）」の実現に向け、官民が協力して目指す空間デザインの方向性を示したものです。
- ✓ 建築物や工作物の新築、開発行為等の規制を目的としたものではなく、まちづくりの方向性を共有するための指針です。
- ✓ みなとまちづくり協議会として提示する、「みなとまちづくりプラン（基本構想）」を実現するための指針です。

（※1）みなとまちづくりプラン（基本構想）

令和2年6月、官民一体で設立された「みなとまちづくり協議会」によって策定された、四日市港四日市地区の活性化に向けた将来構想。

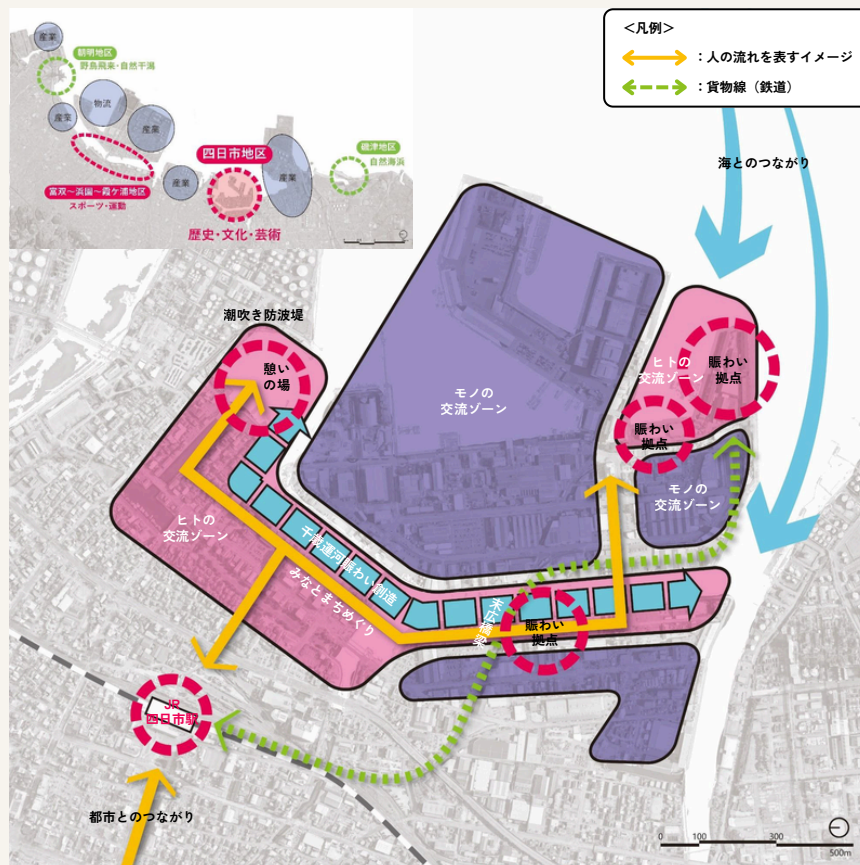
目標の使い方

末広橋梁周辺（千歳運河沿い）において、工作物や建築物を設置しようとする事業者が、当該エリアの目標とする景観について理解するための参照資料として活用するとともに、景観形成に向けた理解、協力を求めるために使用します。



5. 景観づくりの考え方

四日市港末広橋梁周辺の景観づくりは、以下に示す「みなとまちづくりの将来像」(※1)の具現化を目指す取り組みです。



モノ・ヒトがともに集う
 出会い・憩い・賑わいのみなとまち
 ～新たな“よっかいち庭浦”の実現～
ばうら

(※1) 四日市みなとまちづくりプラン（基本構想）より抜粋

▶都市とみなとをつなぐ

四日市地区は、海と陸の結節点として、かつ都市のゲートの一つとして、モノ・ヒトが外部との交流を図る港湾空間である。地区内に広がる資源と背後の中心市街地との連携・ネットワークの強化を図ることで、交流人口の増加、観光振興に資する“みなとまち”となる。



▶交流と賑わいの創出

平日は市民の憩いの場として、地域住民の健康生活を支えながら、住民同士の交流の場を創出する。休日は周辺地域から人が集まる賑わいの場として、広大な水面をいかした非日常を味わう空間をつくる。多様な価値観が重なり合い、活発な交流が生まれる、多世代に愛される“みなとまち”となる。

▶古き良きものと新しいものの融合

四日市地区に点在する歴史・文化遺産、景観などの“古き良きもの”を保存・活用するとともに、千歳運河沿いや第1埠頭を中心に新たな文化・芸術・活動の拠点となる“新しいもの”を整備する。これらが共存し、互いに融合することで、ここを訪れる多くの人を楽しめる“みなとまち”となる。



▶物流と人流の共存

四日市地区の発展を支えてきた物流機能を残した“モノの交流ゾーン”と、人が集まる場、賑わいをもたらす場としての“ヒトの交流ゾーン”を整備する。ヒトが行き交い、モノが集まり、様々な活動が活発に行われる“みなとまち”となる。



6. 末広橋梁周辺の景観形成方針・行為指針

6-① 千歳運河周辺の魅力ある景観を創造するための方針

千歳運河は、四日市港の旧港エリアを流れる歴史ある運河で、産業と文化が交差する独特の景観を持っています。運河には、日本で唯一の貨物列車専用の跳ね橋であり、国の重要文化財にも指定されている「末広橋梁」や、大型船が通過する際に跳ね上がる「臨港橋」が架かっています。また、運河沿いには歴史を感じさせる古い倉庫が立ち並び、かつての港町の風情を今に伝えています。

このような千歳運河沿いの特徴を保全・活用しつつ、次の4つの方針に基づいて、千歳運河沿いの街並みをさらに魅力的なものとし、市民が誇れる「みなとまち四日市」を実現します。

景観形成方針

- Ⅰ 産業を支えてきた港や運河の趣を感じられる景観をつくる
- Ⅱ ヒトを引き寄せ、快適で居心地の良い水辺空間をつくる
- Ⅲ 歴史に触れ、心地良さと楽しさを感じながら回遊できる景観をつくる
- Ⅳ 夜でも訪れたくなる魅力的で安全な夜間景観をつくる

6-② 行為指針

① 産業を支えてきた港や運河の趣を感じられる景観をつくる

- 01 プロムナードや運河のある風景にふさわしい空間を形成する
- 02 プロムナードや橋からの眺望景観を保全する
- 03 運河で水運が行われていた歴史を感じられる景観を形成する
- 04 末広橋梁をシンボルとした景観を演出する
- 05 歴史的建造物に配慮した景観を形成する。
- 06 建造物や植栽等は、運河の背景として見え方に配慮する
- 07 景観に調和する、秩序ある広告景観を創出する



Ⅱ ヒトを引き寄せ、快適で居心地の良い水辺空間をつくる

- 01 運河の水面から空に広がる開放的な空間を維持する
- 02 緑を積極的に取り入れ^(※1)、環境的な付加価値を高める
- 03 歴史的建造物や倉庫などを生かし、新しい魅力を創造する
- 04 運河沿いに心地良い憩いの空間を創出する



(※1) 遮蔽植栽（何かを隠す目的の植栽）ではなく、運河の背景として緑を取り入れることで、水と緑が調和した心地よい親水空間を創出することを目的とする。

Ⅲ 歴史に触れ、心地良さと楽しさを感じながら回遊できる景観をつくる

01 歴史的建造物を背景に、回遊を誘う視点場をつくる

02 自然と季節を楽しめる、連続した歩行者空間をつくる

03 植栽、日除けなどを工夫し、快適な歩行者空間を形成する



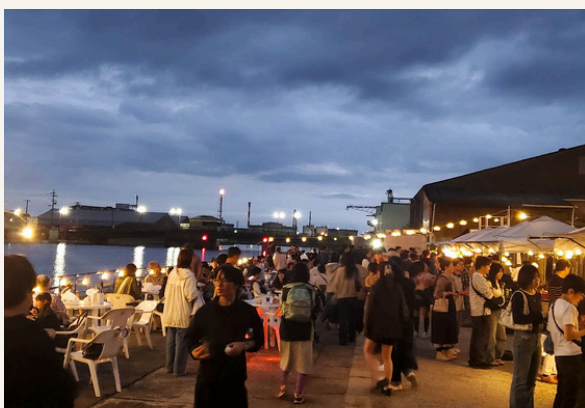
Ⅳ 夜でも訪れたくなる魅力的で安全な夜間景観をつくる

01 建造物へのライトアップ等により運河沿いの空間を演出する

02 落ち着いたある夜間景観を形成するよう照明を工夫する

03 街灯が水面に映る光景や建築物の灯りの演出に努める

04 歩く人が安心し、楽しめる照明の配置と演出を行う

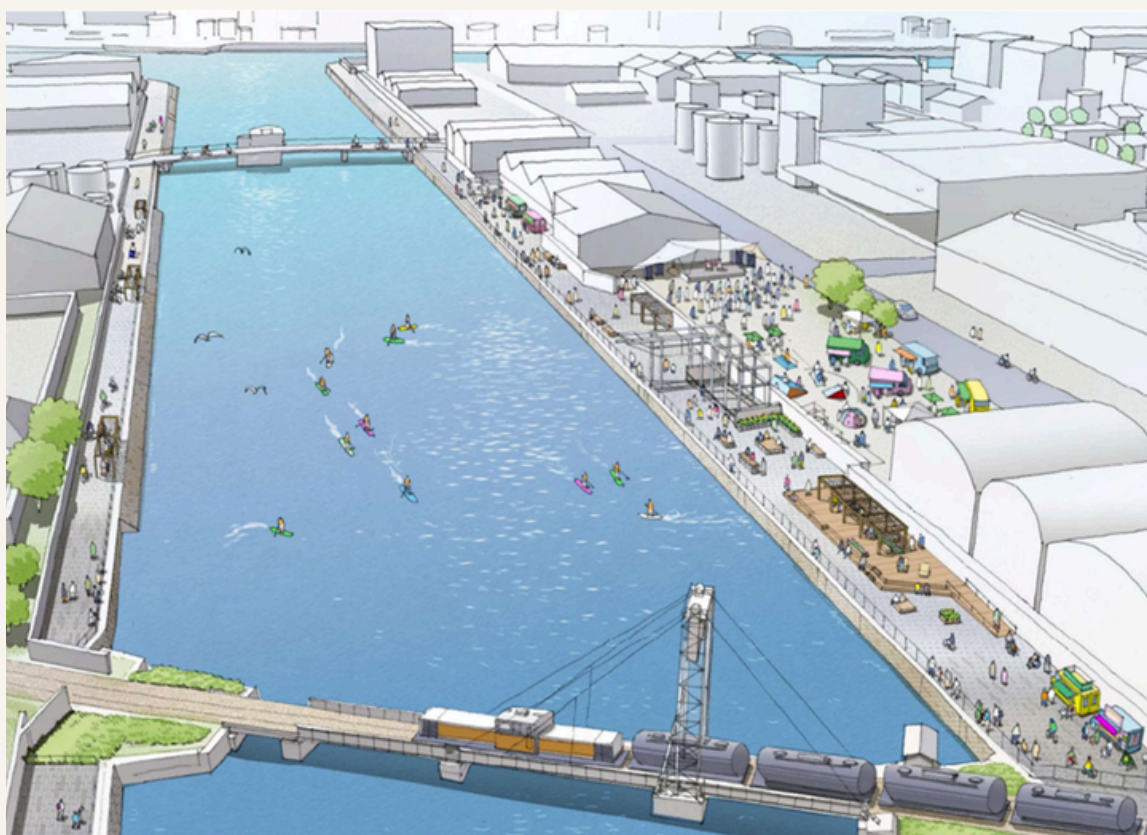


7. 参考資料

【参考】千歳運河 将来目指すイメージ（四日市みなとまちづくり協議会作成）



【参考】千歳運河 将来目指すイメージ（四日市港管理組合作成）



【参考】千歳運河 将来目指すイメージ（四日市港管理組合作成）



【参考】千歳運河 将来目指すイメージ（四日市港管理組合作成）

